

評価対象	羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりの努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 ※上記の項目に替えて又は加えて、評価対象Ⅱ～Ⅵにおける評価項目や学校独自の項目を設定する。評価項目の設定に当たっては、学校運営や教育活動全般等から、学校の特色や「 ・ 」 ・ 」を踏まえ、特色ある学校づくりの状況が明確になるように工夫する。 ※各学校に応じた評価項目を加える。	※各学校に応じた具体的数値項目を設定する。 ①自分の学校やクラスが好きだと感じる生徒が85%以上である。 ②自分が所属する系列の学習活動に満足している生徒が90%以上である。 ③地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が70%以上である。	※年度当初、具体的数値項目に対する方策を明確にする。 ①職員全体で生徒個々に目を配り、特性に応じた指導を行う。 ②系列学習が自らの進路に直結することから、学びが社会貢献に繋がることを意識付ける。 ③系列学習の実践の場であることを理解させ、これらの経験から自己有用感を高める。	A	A	A	○自分の学校やクラスが好きだと感じる生徒が94%であった。今後も学校やクラスに愛着の持てるような学校運営を行っていきたい。 ○自分が所属する系列の学習活動に満足している生徒が94%であった。今後もミスマッチの少ない系列選択の指導を行っていきたい。 ○地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が20%であった。参加したい生徒が50%程度存在しているので、機会提供の場をいかに設けるかが課題である。	○春の興陽フェスタや学習成果発表会など、十分に特色ある教育を実践していると思えます。 ○地域との交流活動等の参加について、参加率が20%で評価「C」というのが残念です。今後様々な方法で参加者を増やしてもらいたいです。 ○学校やクラスが好きだと感じる生徒及び系列の学習に満足している生徒がいずれも目標値を超える結果で素晴らしい。地域としても交流の場をもっと設けたい。 ○幅広く分野で、高い専門性を身に付けており、すぐにも社会で通用する力を育成していることが素晴らしい。大きな特色であると感じました。 ○学習成果発表会では、全ての系列が考え、企画、実行される見事なプロセスに感動しました。
		①「授業は分かりやすい」と感じる生徒が90%以上である。 ②生徒は確かな学力を身に付けていますか。 ③基礎力診断テストにおいてG T Zが上昇している生徒が60%以上である。 ④定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が75%以上である。	①授業評価等で教員が振り返りを行い、適切な指導を行う。 ②進路希望者が増加していることから、基礎力テストが進学に資することを理解させる。 ③平常時より課題等による授業以外の学習習慣の確立を図る。	A	A	A	○授業がわかりやすいと感じている生徒が学年90%程度であった。今後も生徒実態に合わせた指導を行っていきたい。 ○基礎力テスト第2回(2学期)から第3回(3学期)にかけてG T Zが上昇した生徒は、1年生80名、2年生46名であった。基礎学力向上にむけ、学習に取り組みせたい。日々の学習には満足しているという評価の割合が高いので、外部アンケートの評価はBとした。 ○定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が70%程度であった。二時間以上取り組む指導を行いたい。	○分かりやすい授業など適切な指導がなされていると思えます。 ○わかりやすい授業と感じている生徒が90%以上でAの評価は、先生方が適切な指導をおこなっている証拠です。 ○授業がわかりやすいとの評価を得ていることは最も重要なことで、素晴らしい。 ○着実な実践により生徒は確かな学力を身に付けていると思えます。 ○基礎力テスト結果について、学期が進むにつれ学力が向上している生徒が少なくなることは課題だと思えます。 ○高校生でありながら、すでに社会貢献を実践している。確かな学力を身に付けている。
		①誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が75%以上である。 ②生徒に関する情報交換を学期に3回以上実施する。	①挨拶の意義を指導し、教職員からも積極的に挨拶する。また、始業、終業時の分離礼を徹底する。 ②職員会議、朝会等で、全職員の情報共有を図る。	A	A	A	○誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が77%以上で、これまでの継続指導の成果が現れている。 ○生徒に関する情報交換は、各学年をはじめ職員間において今後も随時行い、適切な指導に役立てる。	○しっかりとあいさつできる生徒が育成されており組織的・継続的な指導がなされていると思えます。 ○地域・企業をはじめ、様々な機関と連携し、生徒へのよりよい教育を提供している。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①基礎力診断テストにおいてG T Zが上昇している生徒が60%以上である。 ②定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が75%以上である。	①進路希望者が増加していることから、基礎力テストが進学に資することを理解させる。 ②平常時より課題等による授業以外の学習習慣の確立を図る。	A	A	A	○授業がわかりやすいと感じている生徒が学年90%程度であった。今後も生徒実態に合わせた指導を行っていきたい。 ○基礎力テスト第2回(2学期)から第3回(3学期)にかけてG T Zが上昇した生徒は、1年生80名、2年生46名であった。基礎学力向上にむけ、学習に取り組みせたい。日々の学習には満足しているという評価の割合が高いので、外部アンケートの評価はBとした。 ○定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が70%程度であった。二時間以上取り組む指導を行いたい。	○分かりやすい授業など適切な指導がなされていると思えます。 ○わかりやすい授業と感じている生徒が90%以上でAの評価は、先生方が適切な指導をおこなっている証拠です。 ○授業がわかりやすいとの評価を得ていることは最も重要なことで、素晴らしい。 ○着実な実践により生徒は確かな学力を身に付けていると思えます。 ○基礎力テスト結果について、学期が進むにつれ学力が向上している生徒が少なくなることは課題だと思えます。 ○高校生でありながら、すでに社会貢献を実践している。確かな学力を身に付けている。
		①誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が75%以上である。 ②生徒に関する情報交換を学期に3回以上実施する。	①挨拶の意義を指導し、教職員からも積極的に挨拶する。また、始業、終業時の分離礼を徹底する。 ②職員会議、朝会等で、全職員の情報共有を図る。	A	A	A	○誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が77%以上で、これまでの継続指導の成果が現れている。 ○生徒に関する情報交換は、各学年をはじめ職員間において今後も随時行い、適切な指導に役立てる。	○しっかりとあいさつできる生徒が育成されており組織的・継続的な指導がなされていると思えます。 ○地域・企業をはじめ、様々な機関と連携し、生徒へのよりよい教育を提供している。
		①全教職員が、いじめの未然防止に努めることともに、発生時の解消率が100%である。 ②生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 ③部活動や研究部の加入率が70%以上であり年間を通じて活動している生徒の割合が60%以上である。 ④「清掃が行き届いている」と感じている生徒が80%以上である。	①全教職員が、いじめの未然防止に努めることともに、発生時の解消率が100%である。 ①不適応傾向の生徒に対する早期対応及び長期欠席者(不登校生徒)への対応(家庭連絡等)を的確に行う。 ②生徒の動向を正確に把握し、各分掌と連携して組織的な対応を行う。 ③部活動や研究部活動の充実に努めることともに困難に負けない強い気持ちで育つよう生徒に寄り添う。 ④整潔委員会が主体となり清掃用具の管理を行い、日常的な清掃の徹底に努める。	B	B	A	○いじめ防止対策委員会を中心にいじめの未然防止及び早期発見、早期対応し、早期に解消することができた。 ○1、9%で、前年同期と同ポイントであった。コロナ禍以降、欠席に対する安易さを感じられ、なかなか通常な状態に戻れない。 ○中途退学者及び転学者が8名であった。 ○部活動や研究部への入部率は1学年71%であるが、2-3学年と学年が上がるにしたい大幅に低下している。3年間持続した活動を指導していきたい。 ○「清掃が行き届いている」と感じている生徒が70%を超える状態ではあるが、まだまだ改善の余地がある。	○いじめ防止委員会の取組のもと、いじめの早期解決がなされているようであると思えます。 ○いじめは、教職員の知らないところで発生している事が多く、なかなか発見する事が難儀だと思えます。対策を早急に考える事が必要だと思えます。 ○早期発見、早期対応の実践をお願いします。 ○生活習慣の確立は大変難しい面もありますが、生涯健康で過ごせるよう、引き続きご指導をお願いします。 ○②③がC評価は非常に残念です。打開策を検討してもらいたいです。 ○中途退学、部活動退部の増加は残念である。 ○生徒は礼儀正しく、高校生らしさを感じます。
①インターンシップに参加した生徒が100%である。 ②生徒が取得した資格数が、「一人あたり1.5」以上である。 ③将来の進路について考え、進路実現に主体的に取り組んでいる生徒が85%以上である。 ④自薦としていた進路を実績できた生徒が95%以上である。	①インターンシップへの参加を組織的に指導する。 ②取得可能な各種資格を紹介し、組織的に指導・支援する。 ①系列の専門性を生かしたインターンシップの充実と参加率の向上を図る。 ②進路指導の充実を図ることに、大学・短大入試担当者や企業採用担当者との連携を積極的に行う。	A	A	A	○3年間で全生徒1度は、インターンシップを経験している。(1年生12月-系列別インターンシップ実施)2・3年生では希望者インターンシップを夏休みに実施している。今年度の参加者は2年生39名、3年生1名(県庁インターンシップ)であった。2・3年生の希望者インターンシップ参加者数が増えるよう取り組みたい。 ○今年度の資格取得数は、のべ796である(1月25日現在)。一人当たり1.3であった。資格取得に向け、指導の充実をさらに考えたい。 ○進路の方向性がだいたい決まっている生徒が1年生では70%、2年生では80%である。進路に関して家庭で話題になるは各学年96%である。系列の専門性を生かし、さらに進路について生徒が主体的に考える機会を提供していきたい。 ○進路決定者は188名である(12月末現在)。3年保護者のアンケートでは選択した進路について満足している・ほぼ満足しているを合わせると99%以上という結果である。今後もさらにきめ細やかな支援をしていきたい。	○貴校の進路指導は素晴らしいと聞いております。個に応じた指導の継続をお願いいたします。 ○資格取得は重要だと思えます。資格を持っていれば将来の道の選択も広がる。継続的な指導をお願いします。 ○インターンシップ参加者の増加、資格取得の動機は、最も必要な将来への意欲付けに効果的である。一層の充実を期待している。 ○現在の進路決定状況では、99%の生徒が満足と感じているとのこと、大変素晴らしいと思えます。 ○様々な経験の場を設定し、進路選択につなげてもらいたいです。 ○進路決定者、そしてその満足度99%は素晴らしい。教職員の努力の成果である。		
①学校のWebページを月2回以上更新している。 ②学校の教育活動を理解し、満足している保護者が95%以上である。 ③地域行事への参加や地域と連携した取組が10件以上である	①Webページの運用体制を改善し、定期的な更新に努める。 ②三者面談の実施や学年連絡の発行、メール配信等を行うことにより保護者との連携を向上させる。 ③地域特設行事の一層の充実及び上野町、伊勢崎市等のイベント、保育園・幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校との連携授業へ積極的に参加、協力する。	A	A	A	○学校のWebページを月2回程度更新している。内容は学校通信や諸行事等のトピック、入試情報を中心に扱っている。後はスマホからのアクセスを意識し、動画の活用も充実を図りたい。 ○学校の教育活動を理解し、学校からの通知やホームページ等により学校の様子が分かることと回答した保護者が約8割であった。課題としてメール配信やホームページ、興陽だよりなどツールによる役割を分けて活用していき、保護者が学校活動を簡単に確認する機会を設けたい。 ○地域行事への参加や地域と連携した取組が10件以上であった。地域との絆を持ち続けてきた実業高校としての伝統を守るように今後も活動する必要がある。	○地域行事への参加が10件以上のごことで、大変素晴らしいと思えます。今後とも、地域の核として活躍してほしいと思えます。 ○学校からの発信を増やしてもらいたいです。 ○地域行事へのご協力に感謝しております。今後もよろしくお願いたします。 ○新聞等で興陽高校のみさんの活躍を目にします。発信力が素晴らしい。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。 11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①個別最適化した授業を行うために、クロームブックを活用している教員が100%である。 ①ICTを活用して業務を改善しようと努力している職員が85%以上である。	①生徒がコンピュータやインターネットを利用して調べたことや考えを整理したりまとめたりするのにクロームブックを活用させている。 ①業務を処理する際にICTを活用し、時間短縮に努める。	A	A	A	○個別最適化した授業を行うために、クロームブックを活用している教員が100%であった。 ○ICTを活用して業務を改善しようと努力している職員が85%以上であった。 ○現在のICTを活用した業務改善が求められる中、85%の先生方が改善しようと努めている姿は素晴らしいと思えます。	○100%の先生方がクロームブックを活用して、個別最適化した授業を実践していることは他校の模範であると思えます。 ○クロームブックを活用することにより、授業がスムーズに展開されていると思えます。